

令和8年度 第1回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会 議 名	令和8年度 第1回安曇野市博物館協議会
2	日 時	令和8年5月19日(金) 午前10時から12時まで
3	会 場	安曇野市役所本庁舎3階 会議室301
4	委員出席者	柳澤委員、宮澤委員、米山委員、小野委員、加々美委員、金井委員、笹本委員、永松委員、三原委員
6	事務局出席者	橋渡教育長、三澤文化課長、豊科郷土博物館原館長、安曇野市美術館清澤館長、田淵行男記念館澤田館長、飯沼飛行士記念館兼高橋節郎記念美術館宮沢館長、穂高陶芸会館藤松館長、貞享義民記念館寺島館長、臼井吉見文学館山下館長、逸見博物館担当係長、土屋博物館担当、水谷文化振興担当係長、丸山文化振興担当、塩原文化振興担当
7	公開・非公開の別	一部非公開
8	傍聴人	1人（うち記者 0人）
9	会議概要作成年月日	令和8年5月26日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1 開 会

2 あいさつ

教育長

- ・昨年度制定された「安曇野市子どもの権利に関する条例」に基づき、子どもに多様な学びの機会を提供することは大人の責務である。当市の博物館・美術館は、「学校ミュージアム」や「日展」などを通じて、すでにこの理念を実践する重要な拠点となっている。
- ・本日は令和7年度の事業報告を協議するが、現在市では「新市立博物館の整備に向けた市民の機運醸成」と「博物館法改正への対応」という大きな課題を抱えている。
- ・新委員の皆様にはそれぞれの立場から多様なご意見を頂戴したい。

3 自己紹介

4 博物館協議会の概要についての説明

5 会長及び副会長の選出

互選により、会長：笹本委員、副会長：金井委員で決定

6 協議

■令和8年度各館事業計画（案）

会長

- ・これまでは単年度の報告や計画の協議が中心で、将来の展望に関する議論が不足していた。結論を急ぐのではなく、これからの博物館のあり方について中長期的な意見を出してほしい。

委員

- ・観光面が注目されがちだが、市民がどのくらい美術館・博物館に関心を持ち、足を運んでいるかが気になる。ゴールデンウィーク直前の地震やクマの出没など、外出を躊躇するような事態が起きた際、身近な選択肢として地元の美術館・博物館に行こうと思ってもらうための工夫が必要である。
- ・私たちの生活と企画のテーマをうまく繋ぎ、関心を持ってもらうことが必要。ただテーマを広げすぎると、施設のコンセプトとずれるため、どう効果的に伝えるかが課題である。

会長

- ・市民にどれだけ足を運んでもらえるかは大きな課題である。博物館の努力はもちろん、周囲がどう応援していくかという仕組みを考える必要がある。

- ・学校ミュージアムなどの取り組みに尽力しているが、それでも来館者数は少ない。だからこそ、子どもやその親世代を巻き込むような働きかけをしようとしている。

委員

- ・市内の美術館で、中学生たちがタブレットを手に生き生きと見ていた。学校ミュージアムも含め、子どもたちが本物に触れる体験は大きな財産になると感じている。
- ・文書館の講座で望月桂が、夏の特別展では市内の美術館や礫山美術館でも連動して扱われる。このように各館がコラボレーションし、繋がることで、市全体としてテーマを深めていく方向性は素晴らしい。
- ・臼井吉見文学館の友の会では、新館長のもとで高齢者らの学びたい・集まりたいというニーズに応え、具体的には清沢冽を学ぶ会などが増えた。こうした活動は、拠点となる文学館があってこそ成り立つものであり、市民だけでなく市外・県外からの知りたい欲求のある人たちが集まる場を提供してほしい。

会長

- ・良いものに接する機会を増やすことがファン作りに繋がる。特に 7 月に開催される望月桂展などは、芸術面だけでなく、望月桂の生き方を通じて社会を見つめ、何を学ぶかという視点が重要である。
- ・中長期的な視点として、しっかりした展示を行うこと、これまで博物館で扱われにくかった文学などの分野も含め、施設が連帯して地域を学ぶことが重要である。

委員

- ・小中学生向けの学校ミュージアムは素晴らしい制度だと感心している。今後はこの取り組みだけでなく高齢世代も含め、市民一人ひとりが本当に楽しみ、喜べるような博物館にしてほしい。

会長

- ・高齢者への対応は以前からこの会議において論じられている課題である。実際に入館料を支払って来館してくれる高齢者をどのように惹きつけるか、そのために何ができるかを考えていく必要がある。
- ・博物館の現状は予算が限られた中で各館長や職員が尽力している。そのため、今後の知恵の出し方としては、職員に過度な負担がかからないように配慮することも必要である。

委員

- ・各館の人員配置が今回の資料にないので、追加資料を出してほしい。

会長

- ・多くの館が非常勤職員による 1～2 名体制という極めて厳しい環境にあり、職員は自身の時間を削り、限られた予算のなかで工夫をしながら努力をしている。実情を理解せずに要求を重ねれば、運営自体が成り立たなくなる。こうした過度な負担に頼る現状を根本から改善しなければ、博物館の未来は閉ざされてしまうと思っている。安曇野市に限ったことではないが、引き続き社会にも訴えていくので、委員には協力してほしい。

委員

- ・新市立博物館について、この整備の具体的な段階がわからないので事務局に説明してほしい。

事務局

- ・現時点では何年後にどうするといった具体的な計画や結論は固まっておらず、議会等で具体的な進捗を公表できる段階にない。
- ・新博物館の整備は、まず具体的な整備案を固めた上で議会の承認を得て、その後、必要な予算案を審議してもらうというステップを踏むのが通常の流れである。現段階ではまだその段階に至っていないため、今後は市民の気運醸成を図りながら、開館時期の見通しや整備の手法について報告・検討を進めていくことになる。

会長

- ・市長へ直接要望を書いた提案書を手渡し「建設に向けて努力する」という前向きな返答を得たものの、学校建設などの他事業との兼ね合いから、現時点では予算のめどや具体的な完成時期は明言できない状況である。しかし、建設への道筋は消えていないと捉えている。

委員

- ・学校としては、先週の日展の見学を通じて子どもたちが本物に触れる貴重な機会を得られたことに深く感謝している。生徒が家庭で「見きれなかったのでまた行きたい」と話すなど、日常から離れた本物との出会いは非常に価値があるものと実感した。勤務先の穂高東中学校は礫山館の隣に位置し、校内によい作品が多くあるほか、給食で中村屋のカリイが提供されるなど、日常的に地域の先人の活躍に触れる環境にある。こうした子どもたちの興味関心をさらに高めていくため、教員自身も職員研修などを通じて地域を主体的に学びを深めることで、さらなる探究心や「もう一度足を運んで学びたい」という意欲へつなげていきたい。

会長

- ・学校の先生は数年経つと異動もあってその地域に明るくない人が配属されることがある。研修等を通じて少しでもその地域を理解していただければと思う。

委員

- ・博物館や美術館の解説文は専門用語が多く難解な場合があるため、初心者や青少年にも地域の歴史が直感的に伝わる、わかりやすい伝え方の工夫が極めて重要である。
- ・報告からは、他地域との交流が既に盛んに行われていることが分かり、非常に素晴らしい取り組みだと感心している。
- ・今後は職員の負担増にならない範囲で、帰宅後も会話が弾むような親子で一緒に参加できる事業・企画をさらに充実させてほしい。これからも、青少年が興味・関心を持てるような工夫やアイデアを継続していくことを期待する。

会長

- ・解説文は文字数が多いと読む時間がなくなり、少ないと内容が伝わらないというジレンマや、設置場所による違いに苦心している。対策としてQRコードの活用や多言語対応などを進めている。
- ・当市は子ども向けの活動を活発に行っており、学校ミュージアムなどをはじめ、地域と連携した活動を行っている。

委員

- ・小規模な地域での民具の展示は、単に置くだけでは使い方が見学者に伝わりにくい。他地域との比較を見せたり、写真・動画を活用したり、実際に触れられるようにするなど、使い方や特徴が伝わる展示の工夫が必要である。
- ・展示をより分かりやすくするためには、子どもからお年寄り、障がい者の方まで様々な層の意見を率直に聞いて反映させていくことが必要である。

会長

- ・今は人的余裕がないのが現状。既存の施設に予算は割きにくい。人も予算も厳しい中で何ができるかを考える必要がある。

副会長

- ・安曇野市は美術館と博物館の議論が良い意味で混ざり合っている。かたく言えば多文化共生みたいに館の枠を越えて仕掛けていく。

- ・多文化共生、生物多様性、ネイチャーポジティブ等のテーマが、安曇野の博物館群、ミュージアム群の共通のビジョンとして設定できるのではないだろうか。
- ・AI 化が進む時代だからこそ、代替できない学芸員という職能の必要性を協議会として強く論じていく。
- ・人づくりの方法例として県内の美術学芸員が連携して活動するシンビズムがあり、これは学芸員の経験の引き継ぎという点で大きな役割を果たしている。館の枠を超えて学芸員が共に企画を動かし、経験を引き継ぐ枠組みを作れるのか。
- ・新博物館の議論が起こったが、建物の話だけでなく、学芸の職能を担う人がいるからこそミュージアムという観点を協議会として協調できると良いのではないか。

会長

- ・他自治体では美術館、博物館、城、埋蔵文化財などが別組織で横の連携が難しいのに対し、安曇野市は横のつながりが強く、市教育委員会もそれを前提に動くため非常に良い環境にある。
- ・博物館法にも示されている通り、学芸員の研修機会の確保や育成に尽力していく必要がある。

■事業報告に対する委員からの意見・質問

副会長

安曇野市美術館について

- ・「当館の現代美術の紹介方法の方向性と課題を焦点化できた」との記載があるが、具体的に教えてほしい。
- ・収蔵庫について、スペースがひっ迫しているとのことで具体的に実態を教えてほしい。
- ・負担金・補助金等のところで、当初予算では 900 万組んでいたものが、7 年度決算額としては 400 万円に収まっている理由を教えてほしい。

安曇野市美術館

- ・長野県に関連した現代芸術の作家さんたちに個々に依頼をして、どういう展示ができるかという可能性を探った。途中で辞退されるなど苦労もあり展示数は予定より減ったが、テーマに沿った作家の選定や誘致の方法という今後の課題が明確になり、ノウハウが蓄積できたことは大きなメリットだった。
- ・収蔵庫は整理する時間やスペースが不足しており、特に彫刻の保管場所が課題となっている。予算の制約もある中で、現在の収蔵品をどう効率的に整理・保管していくか良い方法を模索している。
- ・負担金について、昨年度は施設の大規模改修を行ったが、当初の予算よりそれほど負担がかからず済んだ部分があった。

委員

- ・豊科郷土博物館の刊行物販売について、予算額 5 万円に対して決算額が 31 万 7,000 円と大幅に上回った。「戦後 80 年」の企画で出版された冊子が 60 代を中心に非常に好評で、タイムリーかつ良いものが提供できたことが、この好調な結果につながったと捉えている。
- ・田淵行男記念館について、サハリンをテーマにした企画展が実施されたが、現在の国際情勢などに関連した写真や内容となっており、とても良い企画であった。

委員

- ・豊科郷土博物館友の会戦時生活部による「戦後 80 年」の企画展について、市民から提供された資料を調べて活用した企画展であり、提供された資料が非常に大切に扱われたこ

とに対して、自分の周りの提供者は感謝をしていた。

- ・文書館についても同様で、文書館に預ければ資料をととても大切にしてもらえるとという評判が浸透しつつある。個人の家の宝だったものを、安曇野市全体の宝として未来へ残していける場所があることに、感動している市民もいる。

会長

- ・地元の人が大事にしていたものをすくい上げて多くの人の共有財産にしていくことは、博物館にとって最も重要な要素である。委員もそういった側面の普及に尽力してほしい。

委員

- ・高橋節郎記念美術館はイベントを通じて各地の方々と交流の輪を広げており良いと感じている。
- ・貞享義民記念館では出前講座が増えており、地域の垣根を越えた取り組みが素晴らしい。

会長

- ・現在、各館が連携して様々な活動を展開している。
- ・展示品だけでなく、博物館が持つ空間の意味は大きく、田淵行男記念館、高橋節郎記念美術館、貞享義民記念館はまさに風景をつくり、心を養う場所である。

委員

- ・貞享義民記念館の報告書に関連して。赤米とは赤飯の由来になったものであり、民俗学でも重要な米である。しかし雑草のように言われてしまっている現状があるので赤米のためにも正当な評価をしていただければありがたい。

会長

- ・赤米づくりは生育環境の維持が難しい面もあるが、ぜひ続けてほしい。
- ・貞享義民記念館に関して、貞享義民だけに留まらず、現代において最も重要な人権問題へと視野や視点を広げることで、より多くの来館者を呼び込めるのではないかな。

委員

- ・穂高陶芸会館に関して、綺麗な庭を含め、館がとてもよく維持管理されている。安曇野の陶芸についてもっと市外へPRできれば素敵である。子どもが陶器に触れることで、歴史や環境を学ぶ。芸術の側面に限らず生活の視点からの展開を期待している。

穂高陶芸会館

- ・穂高陶芸会館は体験することを重視しており、陶芸の楽しさを肌で感じる事が大切だと考える。そのため、年3回の親子体験教室を実施しているほか、中学生の修学旅行などを積極的に誘致し、若い世代に体験してもらうことで陶芸の裾野を広げる活動を行っている。
- ・未就学児などの受け入れ体制には課題もある。今後は親子の交流を主体とした体験プログラムを拡充していきたいと考えている。

委員

- ・第34回文書館講座「7銭に思いを載せて」について、どういう意味か教えてほしい。

文書館

- ・戦後80周年というところで、戦時中の葉書の値段が7銭であり、出兵の兵士の思いや、それを受け取った家族の思いを読み取っていく講座であった。

会長

- ・各館長や事務局の努力に心から感謝するとともに、教育長が終始会議に参加している姿勢は、市の博物館行政に対する前向きな態度の表れであると感じている。
- ・地域が発展し住民の心を豊かにするためには、博物館や美術館の存在が不可欠である。各

館には今後も周辺の景観や雰囲気配慮しつつ、より多くの人に足を運んでもらえるよう尽力してほしい。

- ・今回の会議で課題は確認できたが解決策には至っておらず、事業報告に対してもさらなる要望や期待があるはずである。課題を共有しながら、委員自身も共に行動する存在として、地域の美術館・博物館がより良く、楽しくなるよう協力をお願いしたい。

4 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。